

# オープン市場短信 (2005年6月)

2005.6.03

## 5月のCP市場動向

5月のCPの新規発行は約3兆4,000億円と期落ち(約2兆6,800億円)を約7千億円上回った。月後半から、法人税の納付資金や賞与資金手当ての発行が行われるようになり、新規発行が増加した。手形CPから電子CPへの移行はスムーズに進んでおり、5月最大発行日となった27日には1兆円を超える新規発行があったが、ほとんどの銘柄が電子CPであった。証券保管振替機構が5月31日に公表したところによると、5月末現在の電子CP発行残高は13兆7,446.91億円(4月末比約3兆8,828億円増)となっており、5月末時点で国内CPの約7割が電子CPに振り替わったと推測される。5月の新規発行企業数は、4月に比べペースダウンしているものの36社が初発行をしており、5月末の発行企業数は合計で223社であった。5月末時点の発行登録企業数は316社で、既発行企業は約74%に当たる235社になった。

発行レートは、大量発行にもかかわらず投資家の根強い運用ニーズもあって全般的に弱含みとなった。a-1格銘柄(一般事法・オペ適格)は、昨年5月中の発行レート(手形CP)と比較してもほとんど変わらない水準での出会いとなっている。但し、前月同様ノンバンク・リース会社a-1格銘柄(オペ適格を含む)では、昨年の発行レートを1BP以上上回るレートでの発行を余儀なくされている。これは、従来から主として現先取引の対象玉とされていたために、投資家の対応がまだ不十分な状態にあることによるものと見られる。電子CP市場の一層の拡大を図るためには、現先取引の活性化が非常に重要であると言えよう。

### 銘柄別の発行レート

【最上位格付け銘柄】0.003~0.01%近辺。

【オペ適格銘柄(a-1)】0.006~0.015%近辺。

【ノンバンク・リース会社】a-1+銘柄 0.003%~0.01%台前半。

a-1銘柄(オペ適格)0.01%台~0.05%台。

【a-2格銘柄】0.01%台前半~0.20%近辺。

### CP オペ

ABCP 買切りオペは今月も2回オファー(12日・26日)され、オファー金額はいずれも1,000億円。いずれも業者5社の応札にとどまり、26日オファー分は札割れとなった。オペ玉保有の偏りが指摘される。

CP 現先オペは、月中3回の期日ロールが行われた。前半2回のオペは、4月末の発行が少なかったことや月が替わってからの発行も少なかったことからディーラーのポジションが軽く札割れとなった。月末が近づいた24日オファーのオペは、それまでの発行が増加していたことや期日分の戻り玉が比較的期間の長いものであったことから、4/7オファー以来久しぶりに応札がオファー額を上回る結果となった。

## 5 月末の CP オペ残高

ABCP 買切りオペ 1,722 億円

CP 現先オペ 2 兆 4,065 億円

(内資産担保 CP1,936 億円/短期社債 1 兆 2,790 億円/資産担保短期債券 3,585 億円)

### ABCP

5 月末の ABCP の発行残高は、約 5 兆 5 千億円と前月比約 6,000 億円減少し、過去 2 年間で最も少ない金額となった。ゼロ金利状態が長引く中で、企業も資金余剰となり企業の債権流動化ニーズがはっきり後退しているということが見て取れる。

### 現先市場

月中現先レートは、0.004~0.008%のレンジでの出会い。

## 6 月の CP 市場動向

6 月中の CP 償還は約 2 兆 9,500 億円と、前年同月 (約 2 兆 9 千億円) とほとんど変わらない。今月は、前月同様納税資金やボーナス資金手当ての発行ニーズが強まると予想されるため、前年とほぼ同額の 3 兆 5 千億円前後の新規発行が行われるだろう。

電子 CP への切り替えは今月も順調に進むとみられ、4 月以前に手形 CP として発行された CP のほとんどが今月で電子 CP に切り替わることとなる。このため、電子 CP の 6 月末残高は 15 兆円を上回るとみられる。3 月までは移行準備がやや遅れがちのように見受けられ、一部に切り替えのペースが鈍いのではという見方もあったが、投資家の運用難を追い風に 4 月以降予想以上に順調に切り替えが進んでいる。発行レートはすでに底値圏に到達しているため、今後は投資家層の拡大とともに銘柄間格差の縮小が進み、手形 CP と変わらない水準となるだろう。

### CP オペ

ABCP 買切オペは、今月も参加ディーラーの適格 ABCP 保有状況を勘案したうえで、複数回実施されるだろう。

現先オペについては、6 月中に 4 回の期日が到来する。昨年同様、5 月後半から発行が増加したことや 6 月も発行が多いと見込まれることから、札割れが起こる可能性は低いと思われる。もっとも、投資家ニーズも強いいためディーラーの手持ちが積み上がることもなく、各回とも落ち着いた応札となるのではないかと。

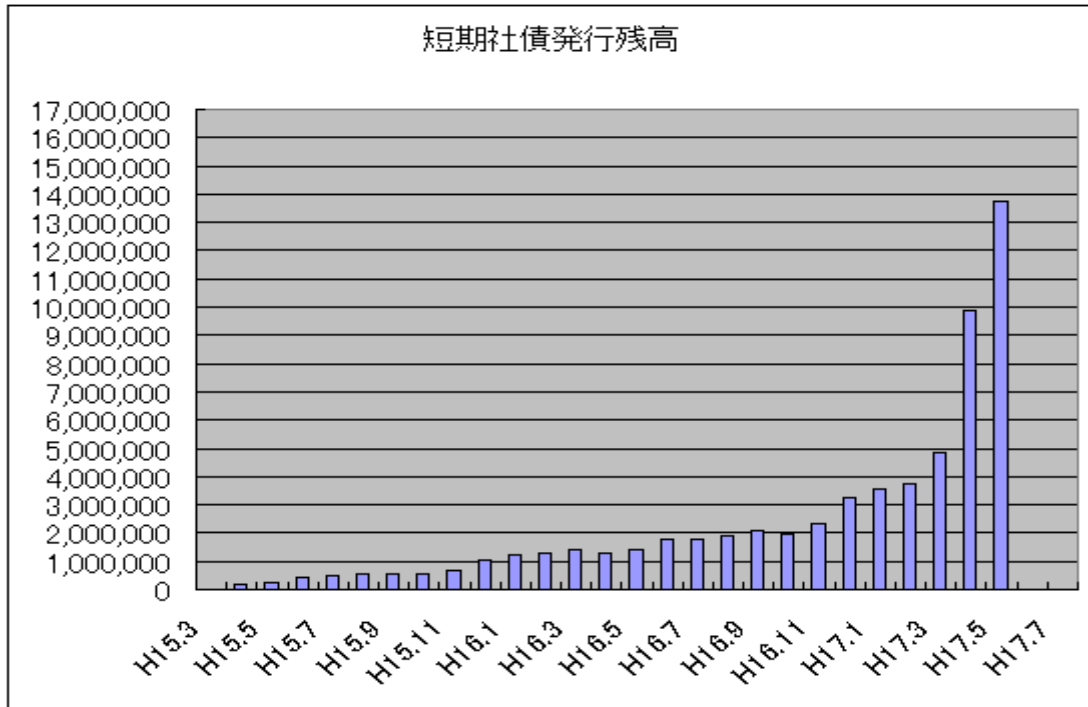
### 現先市場

月中現先レートは、T/N・S/N とともに 0.003~0.007%、ターム物で 0.005~0.008%近辺での出会いを予想。

資料

短期社債月末残高

(H15年3月~H17年5月)



参考出所 (株)証券保管振替機構

(松倉)